

事業所職員向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			利用定員に対しての広さを十分に確保している。また、活動内容や児童の特性・相性に合わせて、スペースを分けたり、コロナ対策として、学校ごとに使用するスペースを分けるなどの工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切であるか		○		国の人員配置基準以上は配置しており、昨年度より職員は増えているが、一人一人の児童に対し、さらに個別療育の時間や外出活動を設けられるような職員配置ができるようにしていきたいと考えている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		建物の構造上、完全なバリアフリー化は難しいが、出入口に手すりを設置している。歩行等に不安がある児童など介助が必要な場合には、個別に対応しており、安全には十分に気をつけている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			朝礼や昼礼、支援ミーティング、職員会議、虐待防止研修、各療育活動などにより、児童との関わり方、環境設定など課題について情報共有を行い、業務改善に繋げている。また、昼礼時のミニ研修の中で、ぶらすupのケースに置き換え、振り返りと今後の支援方針などを検討している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			自己評価表や面談時にいただいたご意見・ご要望については、「ぶらすupの今後を考える会」で協議し、児童にも保護者にも安心していただけるよう改善に向けて協議・検討を重ねていきたいと考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者評価は行っていない。ただ、相談支援専門員や関係機関の来訪などの受け入れにより、風通しの良い環境となるよう心がけている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			朝礼や支援ミーティング等で児童を支援していくうえでの問題点や検討事項等の確認、OJTの実施、雇用形態を問わず全職員が社内外の研修に参加できる機会を設けるなど、より質の高い療育支援の提供を目指し、職員が学ぶ機会を確保している。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者と話し合う機会を設けたり、定期的な面談等により、保護者や本人からのニーズ、課題について、個別支援会議等で検討したうえで作成している。また、学校や相談支援事業所など関係機関とも連携しながら、作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		アセスメントツールやテキスト等を参考にしたり、機能訓練担当職員による専門的なアセスメントにより、実施している。今後も引き続き、よりよい支援が出来るよう、ツール等の検討をしていきたいと考えている。
適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		児童が活動に取り組めたかどうかの振り返りを行い、翌日以降に反映させている。また療育活動検討会にて定期的に話し合い、活動内容や支援方法などの確認を行ったり、新たな支援方法について検討している。検討した内容については、職員会議等を通じて周知し、共通の目標を持って児童への対応を行うよう心がけている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		児童の発達状況に合わせて、学習支援、運動活動、音楽活動、自立課題、外出活動、季節行事や出前講座などいろいろな活動を提案し、組み合わせることで、同じ活動が続かないように工夫している。今後、お子様や保護者の方へアンケート等の意向調査についても検討し、反映できる形で工夫していきたいと考えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		利用時間や児童の成長のペースに合わせて、個別や集団の機会を設けて、季節の行事・工作等を実施したり、長期休暇時には平日にできない「福井県の良いところ探し」等の外出やプール活動等を中心に、活動が固定しないよう工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		児童の状況に応じて、自立課題等の個別活動の設定や療育に関する動画等を活用し、児童の興味に合わせて集団活動を設定している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		朝礼等に活動予定表、支援の内容等について確認している。また詳細については活動担当ごとに確認を行っている。特に外出活動時にはマニュアルに沿って、計画書を作成し、児童の安全や療育の目的等を周知している。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		送迎の帰りや記録入力の時間などに、担当間で振り返りを行っている。職員間で難しい場合には、管理者に報告している。なお、職員の勤務形態により難しい場合には翌日の昼礼等で振り返りを行い、議事録等で情報共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		児童の様子など気がかりな点等について、記録システムに入力したり、業務の振り返りや支援ミーティング等にて確認し、検討・改善している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		モニタリングを行い、必要があれば支援会議を開催し、計画の見直し等を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○		利用時間や児童の体調等に合わせて、ガイドラインに沿った形で、創作・余暇・自立活動等、複数組み合わせ合わせた療育支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児発管、担当職員が出席している。また可能な限り、複数の職員体制で出席することも検討している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		学校へ行事や下校時間等の確認を行い、送迎等の対応を行ったり、他の児童との兼ね合いで送迎が遅延する場合には事前に学校へ連絡を行っている。またシステム（HUG）を利用し、希望される保護者にはお子さまの入退室時等にメールの配信も行っている。
関係機関や	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医療的ケアが必要な児童の受け入れ実績はないが、病院等で機能訓練を受けておられたお子様については、保護者の了解のもと、病院等との情報共有を行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		保護者や相談支援事業所等へ確認し、必要に応じて情報共有を行っていきたいと考えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		移行する場合には、担当者会議等に参加し、相談支援事業所や保護者、卒業後の進路先等と情報共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		児童の状況に応じて、その都度、専門機関から助言等をいただきながら支援している。またペアレントプログラムの出前講座や療育支援研修を受講した職員には、職員会議等で報告してもらい、全職員と知識の共有を行っている。

保護者との連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		○	児童クラブと交流する機会を設けられるよう計画したが、市内のコロナの感染状況により、中止となっている。近くの公園や公共施設を利用することで、地域の子どもたちと接する機会を設けている。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		○	療育支援部会など関連する協議会には参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		○	システム (HUG) を利用し、活動内容について、利用日ごとに毎回発信している。また必要に応じて、電話や面談等で共通理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	まずは、ペアレント・プログラムを行う知識を習得するための職員研修を検討していく。保護者参観時にペアレント・トレーニングや子どもとの関わり方などについての文献の紹介を行っている。また、保護者から相談のあった場合には、その都度、対応方法などについて話し合う機会を設けている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○	契約時に説明を実施したり、不明な点については随時、説明するようにしている。また支援内容については保護者と話す機会を設けたり、システム (HUG) 等を活用し連絡している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○	保護者から相談のあった場合には、適宜、電話や送迎時等で対応したり、必要に応じて相談日を設けたりなどしている。また職員間で情報共有を行い、検討して適切に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	現在、保護者会等は設置していないが、保護者参観など、ぶらすupの行事に参加できる機会を設けることで、保護者同士や職員と交流を図ることができた。今後も様々な形で工夫して交流を深めていける機会を増やしていきたいと考えている。
保護者	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		○	ご意見箱の設置や苦情解決体制を整え、苦情や問い合わせ等があった場合には、マニュアルに従い検討し、対応している。また児童からの要望等については、利用時間中に返答するなどの対応をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	会報としてぶらすupだよりを年3回作成し、配布している。また、行事予定や日々の活動記録については、システム (HUG) を通して、その都度、情報を発信している。

への説明責任等	35	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いについては、会議等を通じて職員へ周知している。また、個人情報が記載された書類等については、鍵付きのキャビネットに保管するなど、取り扱いには十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		児童や保護者に合わせて、写真やイラスト等を使って、わかりやすく説明するよう工夫したり、理解してもらえたかなど確認しながら意思の疎通を図っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		コロナ禍により制限のある中で、行事に合わせて地域住民に参加してもらう機会を設けている。またボランティアの受け入れも積極的に行っている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		各マニュアルについては、施設内に設置しており、いつでも閲覧できるようになっているが、もっと保護者に対して分かりやすい形で情報を発信していく必要性を感じているため、システム等を利用し、周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		非常災害の発生に備え、消防署への見学や出前講座などを利用し、月1回、避難訓練等を実施しているが、より安全に避難等を行えるよう、訓練方法等の改善を検討していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		年1回の虐待防止委員会を開催している。また虐待に対する正しい知識を得て、児童と関わりをもてるよう、社内外の虐待防止に関する研修への参加や話し合う機会を設けている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		身体拘束に関しては、会議等で十分に検討し、利用者本人の生命や身体を保護するため緊急を要する場合に、切迫性・非代替性・一時性であることを条件に行うことを職員の共通認識としている。また、虐待防止研修等で学んだことを職員間で共有し、お互いに留意している。やむを得ず身体拘束が必要と判断した場合には、保護者等へ丁寧に説明し、了承を得たうえで、個別支援計画書に記載し、同意を得るようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	現在、該当する児童はいないが、受け入れる場合には、医師の指示書に基づき、保護者等と相談しながら整えていきたいと考えている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリ・ハットな事例があった場合、報告書に記載し、朝礼、昼礼時や職員会議等を通して職員で共有している。	